

あってso busy. そんな状態のなか、なんとかスケジューリングを調整して、オイラはスーブラチューニングの旅に出たってワケですよ。

最初に目指したのはHKS関西サービス。ここでは連成計他の増設メーター類の取り付けだ。なぜHKS関西サービスかっていうと、公爵向井先生のところで助手席用エアバッグスペースにドンビシヤにはまりこむ、スーブラ用メーターパネルキットをリリースしてるからなのよ。谷田部の最高速テストの時にKansasaスーブラに取り付けられているのを見つかりとチェックノ。これが純正パーツみたいな出来の良さと超カッコイイんだ。ひと目見たその日から、「オイラのスーブラちゃんに絶対、付けてやる」って思ってたってワケ。

それにさ、オイラのスーブラには補器類のメーターがなんも付いてなかったから、どれくらいブーストがかかっているのか? 油温は? 油圧の状態は? ってこともわからなかったらう。やっぱり、本格的にエンジンチューニングに入る前に、しっかりとクルマの状態を知っておかないとね。

というワケで、HKS製ビークホールドメーターをこつちやりと仕入れ、一路HKS関西サービスへ。期待に胸を躍らせながら東名、東名阪とスーブラちゃんをカッ飛ばし、朝一番でHKS関西サービスに到着。さっそく作業に取りかかっていた。

取り付け位置はあらかじめ決めておいたとおり60φの連成計はインパネ内の左側エアコン吹き出し口に、エアバッグスペースの増設メーターパネルには左から46φの電圧、60φの排気温&油圧&油温を取り付けてもらう。連成計の取り付けにはちよつとしたポイントがあって、エアコンルーバーを加工して、ルーバーの外枠にメーターをはめこむんだ(写真参照)。

キモとなるセンサーの取り付け&配線はKansasaスーブラ号と同様の処理

CS-TOPの片桐さん他のチューナーさんもここに付けてるパターンが多い。きっちり取り付けられればこのようにメーターとインパネがツライチになるのでカッコいいゾ。HKSの60φコンパウンドメーターは3万6000円。もちろんビークホールドタイプだ



をしてもらった。連成計の圧力センサーはなんの問題もナシ。油温センサーはオイルパン左側にドリルで穴あけ加工をし、センサーを埋め込み、配線を通して終了。問題となったのは油圧のセンサー。エンジンブロックのオイル出口が入り組んでいる上、周辺にはサブスロットル、ト



連成計をエアコン吹き出し口に取り付けたところを裏側から見た図。エアコンルーバーを一度外し、アミ目の部分を分解して取り除く。そこへゴムホースなどを巻き付けて外周が太くなったメーターをはめこむという仕組み。青く見える部分がゴムホースだ。



手でセンサーを差し込んでいるのが油圧の取出口。ここにクランプを取り付け、分岐させて、メーター用の圧力センサーを付ける予定だったが、このように入り組んでいる上、周辺には補器類が集中しているため取りまわしが難しい。作業も大がかりなものになってしまうので、今回は断念した。

これが公爵向井先生のスーブラ用メーターパネルキットだ。助手席用エアバッグスペースにドンビシヤではまってるっしょ。価格は2万8000円(税別)、60φのメーターが4個まで入れられる。穴あけ加工は1穴につき1000円だ。オイラの場合、左からHKSのボルトメーター(46φ、1万6000円)、エキゾーストテンプレメーター、オイルプレッシャーメーター、オイルテンプレメーター(60φビークホールドタイプ、各3万5000円)をセット。下欄にはEVC(8万2000円)とSBC(4万5000円)を取り付けた。



スーブラの場合はエンジンルームが込み入っているんで、油温のセンサーはオイルパンに取り付けるのが一番いい。運転席側にはドレインボルトがあるので、反対側にドリルで加工し、取り付けた。

連成、油圧の圧力センサーはステータを自作し、エンジンルーム右手上の空きボルト穴を利用して取り付け。



ランクシオンコントロール、パワステなどが密集しており、クランプで立ち上げて、オイルラインを分岐させるのはかなり困難なのだ。クランプをつないでいくとオイル漏れやトラブルの原因にもなるし、もしオイルクーラーを取り付ける予定があるなら、センサーはそっちに付け

た方がきれいに仕上がりますよ」と言われ、しばし悩んでしまった。ゲッター鈴木の話では、「ノーマルターピンでも油温はかなり厳しいはずですよ。うちがテストした結果ではサーキットだと140℃くらいまでイッちゃいますからね。パワを出していくなら、さらにキツくなる

作業もいよいよ大詰め。メインハーネスの取り出し口を通すと、ちよつとグローブボックスの後ろ側に出てくる。グローブボックス&エアバッグスペースはボルト4個を外してそれぞれ上、下にずらすだけでポコッとはずれてしまう。これは簡単。



からオイルクーラーは必需品でしょう」と言うのだ。うう、そうだったのか。油圧のセンサーを取り付けるのがこんなに大変だったとは知らなかった。わがままを言って、補器類を取り外し、無理矢理取り付けしてもらったことでもできるけど、オイルクーラーを付けるときに、もう一度大きな作業をすることになるのなら、とりあえず今



配線の引き込みはこのように。連成、油圧、油温でEVCの配線まで通さなくてはならないので、全部でかなりの太さになる。でもこつこつたことは一度にやっつけてしまったほうが効率いいもんな。